

地域自治区調査特別委員会

7月4日の委員会では市長の出席を求め「(仮称)奥州ちいきかいぎ」の素案について説明を受けました。

「(仮称)奥州ちいきかいぎ」は、30の地区振興会長を構成員とする全市でひとつの組織とし、市民目線でのまちづくり活動を行い、地域の課題解決に向けた事業を推進することを目的として設置すること、旧市町村単位の5つの「ちいきかいぎ」から出されたソフト事業の決定を「奥州ちいきかいぎ」で行うこととし、その事業の実施のために新たな予算を確保するとのことでした。

同日の説明を受け、会派ごとに素案について検討した内容を取りまとめ、7月28日付で質問・意見書として提出いたしました。

8月8日には、この質問・意見書への回答、という形で、再度、委員会を開催。回答の内容に不十分な点があったことから、再度、市で検討してもらい、9月22日の委員会開催となりました。更に検討・協議を要する点があったため、住民説明の前に再度、委員会を開催することとしました。なお、市と意見が一致しない部分については、住民説明の際、市の案と議会の意見とを併記して提示するとの回答がありました。



9月22日の委員会で説明をする小沢市長(中央)

新市立病院建設調査特別委員会

8月8日の委員会においては市長及び担当職員等の出席を求め、「策定委員会における協議の状況」、「基礎調査の結果」、「3師会から市に対する要望及び質問書並びに市からの回答文」について調査いたしました。

策定委員会及び県との協議状況、胆江二次医療圏の地域医療と周産期医療についての内容を中心に質疑が行われ、周産期医療と地域医療の役割分担の質問に対し、新市立病院で脳神経外科や周産期医療を受け持つのは難しいが、胆江地域近隣の医療機関で、なおかつ安全に受診できるよう対応していく方向がより現実的であり、水沢病院が持っている強みを生かし、弱い部分を胆江二次医療圏でどのように役割分担するかという議論を今後行っていくとの説明を受けました。また、回復期に対する医療の充実や在宅医療など、将来を見通した機能を充実させていく必要があるという考えが示されました。



8月8日の委員会にて挨拶をする高橋委員長(右)

ILC誘致及び国際科学技術研究圏域調査特別委員会

9月25日の委員会では、県議会議員の郷右近浩氏と菅野博典氏を講師に迎え、過日県議会議員有志で実施された、スイスのセルン研究所、ドイツのダイジー研究所等の視察の状況を「ILCの海外での情勢について」と題し、今後の市、県での取組みに向けた視点から講演をいただきました。

両県議からの報告の中では国際プロジェクトの認識が必要であること、また、コミュニティをどうつくるか、どのような形で作っていくか、ということが何度も語られ、多様な対応を検討することが肝要との内容であり、さらに、医療分野、教育の分野、居住について具体的な状況を聞くことができました。

また、研究者はすでに研究所が建設される場所に興味をもっており、市として受入体制などを積極的に情報発信していくべきとの発言もありました。

来年8月とも言われている国の誘致決定に向け、市のみならず、市議会としても力を入れて取組みを強化していく必要があり、住民の理解と国内外へのアピール等、どう対応していくのか見通しをつけていく必要があると感じたところです。



海外での視察内容を講演する郷右近県議(左)と菅野県議(右)